

(仮称)小田原市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び(仮称)小田原市
まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案に対する市民意見の募集結果について

1. 意見募集の概要

政策等の題名	(仮称)小田原市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び(仮称)小田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略
政策等の案の公表の日	平成27年9月14日(月)
意見提出期間	平成27年9月14日(月)から平成27年10月13日(火)まで
市民への周知方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 広報おだわら9月15日号 ● 市ホームページへの掲載 ● 意見募集要項を市内公共施設へ配布

2. 結果の概要

提出された意見は、次のとおりです。

意見数(意見提出者数)	23件(3人)
インターネット	3人
ファクシミリ	0人
郵送	0人
直接持参	0人

3. 提出意見の内容

パブリックコメントで提出された意見の主な内容とそれに対する市の考え方は、次のとおりです。

〈総括表〉

区分	意見の考慮の結果	件数
A	意見を踏まえ、政策等に反映したもの	8
B	意見の趣旨が既に政策等に反映されているもの	0
C	今後の検討のために参考とするもの	8
D	その他(質問など)	7

<具体的な内容>

番号	種別	意見の内容	区分	市の考え方
1	人口ビジョン	他の人口のグラフと違い7ページの図表5のみグラフのメモリが千人単位なのはなぜですか？	A	統一性を持たせるため、表記を修正します。
2	人口ビジョン	10ページに中部より転入超過や東京圏への転出超過などの状況が記載されているが、なぜそうなっているのかまで検証しなければ意味が無いのでは？	D	人口移動に関しては、様々な要因が背景にあることから、要因を断定することは難しいものと考えます。今後も引き続き研究していきます。
3	人口ビジョン	11ページの図表9-1において、なぜ1990～1995年において20代の人口流入が多いのですか？	D	人口移動に関しては、様々な要因が背景にあることから、要因を断定することは難しいものと考えます。今後も引き続き研究していきます。
4	人口ビジョン	11ページの図表9-2において、なぜ1995～2000年において20代の人口流出が多いのですか？	D	人口移動に関しては、様々な要因が背景にあることから、要因を断定することは難しいものと考えます。今後も引き続き研究していきます。
5	人口ビジョン	12ページの図表10-1において、なぜ10～20代男性の人口流出が多いのですか？	D	人口移動に関しては、様々な要因が背景にあることから、要因を断定することは難しいものと考えます。今後も引き続き研究していきます。
6	人口ビジョン	12ページの図表10-2において、なぜ30代女性の人口流入が多いのですか？	D	人口移動に関しては、様々な要因が背景にあることから、要因を断定することは難しいものと考えます。今後も引き続き研究していきます。
7	人口ビジョン	14ページにおいて、湯河原町が県西に区分されていませんが、その他に区分されているのですか？	A	湯河原町が抜けていたため、追加します。
8	人口ビジョン	14ページの図表11-3の当地以外に従業・通学している者の県内他市の湘南の10541の隣にある1はどういった意味ですか？	A	誤入力のため、削除します。
9	人口ビジョン	19ページにおいて、小田原市に常住しながら市外へと通勤・通学している者が多い。とあるが、比較対象が無いので、多いのか少ないのか判断できません。	A	分かりにくい表現であるため、修正します。

番号	種別	意見の内容	区分	市の考え方
10	人口ビジョン	19ページにおいて、「超高齢社会への対応を的確に図りつつ、若い世代が集い、留まることを目指して、希望する職に就くことができ、子どもを産み育てやすい環境が整い、住み続けることに魅力を感じるまち」を実現することが必要であると考えたとあるが超高齢化社会への対応は的確に図っていなかったのですか？若い世代が集い、留まることは目指していなかったのですか？希望する職に就くことができ、子どもを産み育てやすい環境が整っていなかったのですか？住み続けることに魅力を感じないまちだったのですか？そうでないのなら、ここで改めて考察をして基本的な考えとしてまとめる必要はなく、もっと別の考え方にするべきではないのですか？	D	本市の総合計画においては、課題を抽出し、将来を見据えたまちづくりを実現するため、御指摘のまちづくりの考え方に関連する施策をも推進してまいりました。総合計画は、まち全体のあり方や方向性を示したものである一方、地方版人口ビジョン及び地方版総合戦略については、国のビジョン及び総合戦略の趣旨を勘案してまとめるものとされており、人口減少・少子高齢化問題に特化したものとしています。
11	人口ビジョン	11. 19ページにおいて、「魅力を発信し、人の流れを作る」「活力にあふれ、住み続けたいまちをつくる」とありますが、他の自治体も同様なまち・ひと・しごと創生人口ビジョンを作成した際に、他自治体との人口の奪い合いが起これると思いますが、そこについての市の考えを教えてください。	D	国のまち・ひと・しごと創生総合戦略においては、東京一極集中を問題の1つとして捉えており、出生率の低い東京など大都市部から地方への人の流れをつくることによって、問題の克服を図ろうとしています。 本市は、新幹線の停車駅であるなど鉄道網が整っており、東京や横浜などの通勤圏内にあります。このような本市特有の強みや地理条件を活かし、単に地方間の人口の奪い合いに終始せず、若年層の大都市部への流出を抑え、大都市部から人を呼び込むことを目指すことが国が地方創生において求める地方自治体の役割をも果たすものと考えています。
12	人口ビジョン	20ページにおいて、他はですます調だが、？本市における人口の将来展望でのみ、文の語尾が「～とする」となっている。	A	ですます調に表記を修正します。
13	総合戦略	9ページのKPIの市内における起業件数とは何をもって起業とするのでしょうか？	A	起業家支援施策により実際に起業に結びついた件数となりますが、御指摘いただいたとおり、分かりくい表現となっていることから表記を修正します。
14	総合戦略	9ページの小田原セレクション事業における選定品の売上伸び率はいつとの比較の50%増なのですか？	A	事業実施前年度である平成26年度との比較になります。表記を修正します。
15	総合戦略	12ページのフェイスブックの「いいね！」数がKPIになっているが、海外の民間企業の提供するサービスであるため、平成31年までの間にフェイスブック社が倒産やフェイスブックのサービスが終了した場合はどのようにして成果を確認するのですか？	C	まち・ひと・しごと創生総合戦略においては、毎年度見直しを行い、必要に応じて修正が認められていることから、御指摘のケースがあった際には、指標の変更を検討します。
16	総合戦略	12ページの地域資源(海・魚)を生かした遊漁体験ツアーの実施で「未病を治す」の意味がわかりません。	A	「未病を治す」の文言が初めて用いられるP7において説明を加えることとします。
17	総合戦略	13ページの合計特殊出生率の目標値が、国の示した合計特殊出生率1.60から0.19を引いた数字になっているが、これでは国の考える合計特殊出生率の流れに乗っかっているだけで、これ以上を目標にしてこそその総合戦略なのではないのですか？	C	人口ビジョン及び総合戦略の策定に当たっては、国の地方創生に関する趣旨を勘案するとともに、都道府県との調整を図りながら策定に取り組むよう示されています。人口の自然増減に関しては、国策による影響が大きいことなどから、国の考え方をベースとしつつ、神奈川県との調整を踏まえて人口の将来展望を掲げることとしたものです。

番号	種別	意見の内容	区分	市の考え方
18	総合戦略	14ページの4か月児健康診査受診率については、下の細かい施策を行っても4か月児健康診査受診率が0.5%上がると思えない。	C	現状は99.5%ですが、目標としましては、全ての対象者が受診することを目指して設定するものです。
19	総合戦略	15ページの不登校児童・生徒出現率については、具体的名数値の目標を掲げてしまうことで、目標達成のために児童や生徒に対して無理やり登校させるようなことが起こりえないため、指標にすることはやめたほうがよい。	C	不登校児童・生徒出現率を減らすために児童生徒へ登校を無理強いする指導を行うことはありませんが、改めて学校の教職員や関係機関の担当者等へも理解を求めながら、出現率の減少に市全体で取り組みたいと考えています。
20	総合戦略	エリート給付金(返還不要な奨学金)事業のご提案 若き日本の頭脳を小田原に集めます。開成・麻布・筑駒・女子学院・桜蔭・慶応への通学新幹線定期代を全額支給します。おそらく、それほど集まらないので、予算は少なくて済むでしょう。それでも、その中の誰かが、将来小田原を救うでしょう。 また、予想外に集まりすぎた場合には、教育産業の活性化とともに、高所得者の移住による税収増と不動産価値向上が期待できます。	C	頂いた御意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
21	総合戦略	駅近辺に全くない保育を充実してほしいと思います(エキナカ保育園・送迎保育ステーション)。それだけで子育て世帯は定住してくれます。第二子以降を産んでくれます。また、一人っ子が大変多くなってしまったように感じます。0-2歳のみではなく、3歳からの教育や保育に目をむけてほしいと思います。片浦のように放課後に地域の特性を生かした教育を行うことを促進していただければと思います。	C	本市総合戦略においても基本目標として「子どもを産み育てやすい環境をつくる」を掲げており、多様な保育・教育ニーズに対応できるよう、今後も保育環境、教育環境の向上に努めてまいります。頂いた御意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
22	総合戦略	空き家だらけで駐車場がなく、かつ、土地が細切れでマンションが小さく、子育て世帯に住みやすい住居が提供されていないように感じます。空き家の持ち主に問い合わせる、畑等の空き畑を斡旋する、駐車場やカーシェアを整備するなどしてみたいかがでしょうか。今の状態は、東京のせまいマンションに暮らしている状態と相違ありません。小田原ならではのよさ(新幹線がとおり、自然が豊か)を伝えることができないままです。新幹線通勤を視野にいれた駅前駐輪場・駐車場の整備を行ってみたいかがでしょうか。	C	中心市街地においては、活気溢れる住みよい居住空間を創出するため、街なか緑化の推進や駅前駐輪場・駐車場の整備を計画的に進めていくなど、住環境の向上を図り、街なか居住を促す取組を進めています。頂いた御意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
23	総合戦略	小田原市がどんなに素晴らしい施策を実施しても、PRされていないため、浸透していません。HPや新聞等で営業PRがされていないように思います。観光を主としたPRを行い続ける限り、人々の定住化政策はなかなかうまくいかないと思われます。	C	今後も時代の変化に即した都市PRのあり方を考えてまいります。頂いた御意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。

4 提出意見と関係なく変更した点

表現の統一、文言字句等の修正を行いました。